

# 麗月 (れいげつ)

登録番号: 第 12983 号	潤 稗圃直史 佐藤義彦 福田 伸二
登録年月日: 平成 18 年 3 月 23 日	
登録者: 長崎県 (長崎県長崎市江戸町 2 番 13 号)	来 歴: 「森尾早生」と「広東」の交雑 実生
育成者: 一瀬 至 橋本基之 森田 昭 寺井理治 浅田謙介 中尾 敬 吉田俊雄 富永由紀子 長門	育成 地: 長崎県大村市 (長崎県果樹試験 場〔ビワ育種指定試験地〕)

## 特 性

### ■栽培特性

樹勢は強く、樹姿は直立性である。枝は太く、その発生は「長崎早生」よりも少なく中～粗である。中心枝や副梢の着花率も「長崎早生」より若干劣るが、誘引などにより結果枝の確保に努めれば「長崎早生」と同等の収量が期待される。葉は「長崎早生」より大きく、葉色は淡緑である。冬季の落葉は「長崎早生」よりも少ないと思われる。

育成地 (長崎県大村市) における開花盛期は 11 月中旬～12 月下旬で、「長崎早生」とほぼ同時期である。

### ■果実特性

「麗月」は、開花時期が早いために露地栽培では寒害を受けやすく、また、収穫期直前の降雨で裂果やそばかす症が発生しやすい。果実の商品化率を考慮すると施設栽培での導入が望ましい。そこで、施設栽培を前提として果実特性を紹介する。

「長崎早生」一般型ハウス栽培体系で栽培した場合、育成地で 4 月下旬に成熟し、収穫期は早生種の「長崎早生」よりやや遅い。果実重は平均 51g で、「長崎早生」よりも大きい果実が生産される。果実縦断面の形は円形～扁円形、横断面は円形、果頂部は開孔している。果皮色は黄白色で、着色の揃いも良く、外観は非常に良好である。果皮は比較的厚いほうであるが、剥皮性に問題はない。施設栽培でもそばかす症の発生が見られることがあるが、概ね果実の生理障害の発生は少ない品種である。

果肉は黄白色を呈し、緻密で軟らかく、糖度は平均 14.1% と極めて高いのが特徴である。酸含量も 0.26g/100ml と中程度なので食味が非常に優れている。

### ■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

主要病害のがんしゅ病の発病程度は、「茂木」や「長崎早生」に比べてやや強いが、慣行の防除は必要である。

露地栽培を行った場合、開花時期が早いために寒害を受けやすく、収穫期直前の降雨で裂果やそばかす症が発生しやすい。そのため商品化率が低下するので、施設栽培が望ましい。また、樹勢が強く、枝の発生が少ないので、誘引などにより結果枝の確保に努める必要がある。果皮色が黄白色であるため熟期の判断が難しいが、試食を繰り返し、熟期の判断に慣れていただくことが重要である。

### ■地域適応性

全国のビワ施設栽培地域で栽培が可能である。露地栽培するときは適地を選ぶので、検討が必要である。「麗月」の魅力はその食味にあり、ビワのイメージを覆す強いインパクトを有する新商材としての大きな可能性を秘めた品種と思われる。消費者の求める「おいしいビワ」作りを目指す産地において、「麗月」の特性が十分発揮されるものと期待している。(福田伸二)